

◇ 「40個のチャレンジ章を取得」

北名古屋第2団
団委員長 植手

北名古屋第2団カブ隊の柴田愛琉君(小5)は、うさぎの時からコツコツとチャレンジ章に励み、見事40個(旧称スーパーカブ)を取得しました。

当団からは初めてで、他のスカウトの模範であり、努力のたまものです。

これからもがんばれ、柴田君!



◇ 「社会を明るくする運動で最優秀賞」

北名古屋第2団
団委員長 植手

当団(北名古屋第2団)ボーイスカウトの堂本貫太君が書いた「今ぼくにできること」の作文が、市の社会を明るくする運動で最優秀賞に選ばれ、11月12日の北名古屋市青少年健全育成大会で表彰されました。

表彰に際し、彼はボーイの制服姿で出席、手振り身振りで自身の作文を発表しました。また、この時、彼は同時に善行少年表彰も受けています。



◇ 「カブスカウト秋季舎営を小牧山青年の家で実施」

北名古屋第2団
団委員長 植手

北名古屋第2団のカブスカウト隊は、11月5日～6日に1泊2日で小牧山の青年の家で秋季舎営を行いました。

初日は、地図の等高線を読んで、発泡スチロールで小牧山の模型を作成しました。また夜には小牧城からきれいな夜景を眺めました。

2日目は救急の勉強・実践をし、実りある時を過ごしました。



2日目の16日には駅前でパレードが行われました。市内小学校のマーチングバンド、武者修行といった参加団体のプラカードをカブ、ボーイ、ベンチャースカウトが持って奉仕をしました。



◇ 「小牧市民まつり」

小牧第2団 団委員



小牧市民まつりが10月15・16日、小牧山・市民会館・駅前にて3年ぶりに開催されました。

ボーイスカウト小牧1団・2団は小牧山青年の家で焼杉工作を行いました。カブスカウト・ベンチャースカウトの活躍により、2日間で約200組、のべ300人が体験してくれました。

◇ 「初めてづくしの夏季キャンプ」

春日井第5団
カブ隊 鈴木聡真

今年の4月に入団して初めての夏季キャンプ。出発の何日も前からドキドキワクワクでお母さんと何度も荷物をたしかめました。

当日の朝はお天気も良く、後ろにひっくり返りそうになるくらい大きな荷物をせおっていざ出発。



初めての長良川鉄道、初めての食品サンプル作り、初めての火起こし、初めての一人でのおとまり、初めてのアユのつかみどり。中でも一番の思い出は、初めての火起こし。ちょっぴりこわかったけどマッチで火をつけたのがうれしかったし、楽しかったです。その火で調理したよるごはんはとってもおいしく、もちろんのこさず全部食べました。

色いろしっぱいもしたけど、とても楽しく良い思い出がたくさんできました。今から来年のキャンプが待ち遠しいです。

◇ 「夏のキャンプの思い出」

春日井第5団
カブ隊 宮地あかり

カブスカウトでの初めてののとまりのキャンプでした。

心に残ったことは夜ごはん作りです。夜ごはん作りは、まず火起こしをしました。マッチをつかうのは初めてなので、すこしきんちょうしました。しっぱいしたらどうしようと思っていたけれど、無事にマッチに火をつけたのでほっとしました。だけれどなかなか火が木にうつらなかったので、何本もマッチをつかってしまいました。木に火がしっかりとうつったときに、うれしかったことが一番印象に残っています。

野菜を切る時は手ぶくろをつけていたので、切りにくかったです。たいへんだったけれどけがすることなくじょうずにきれたので、も

う全て切り終わったのに、まだ野菜を切りたいと思うほどでした。しかしそのまま切っていたらゆだんをして手を切っていたと思います。



ごはんをあらうときに、水といっしょにお米を流さないようにするのがたいへんでした。たきはじめてからはどんなふうにしたのかをいっぱいそうぞうしていました。はんごうでごはんをたくのははじめてだったので、どんなふうにするかわくわくしていました。こげたり、おかゆみたいにならずおいしくたべられたのでうれしかったです。

たいへんだったことやはじめてのこともありましたが、たのしかったことのほうが多かったのもまたいきたいです。

◇ 「楽しかった火起こし」

春日井第5団
カブ隊 長谷川博一

ぼくは、8月11日・12日キャンプにいきました。

その中で一番楽しかったのが火起こしです。最初は湿っていてマッチで火がつかないのですが、マッチの火はつきました。しかし、あさ紐のほどいた物に火がついただけで木にはつきませんでした。これを何回も繰り返したり割りばしにつけたり、木のおき方をかえたり、うちわで風を送るなどをしてい

たら、木に火がつかしました。

そして、ずっとうちわで風を送っていると
どんどん火が強くなりました。

そして、金あみをのせ、料理ものせました。
途中でこげないかなあとしんぱいになりました
が、おいしく食べれたのでうれしかったです。



◇「最近うれしかった活動」

日進第1団
カブ隊 中島 拓哉

ぼくの、スカウト活動で最近うれしかったことは、「夏の思い出」の絵を描いたことと、オープンスカウトで、火おこしをしてマシュマロを焼いて食べたことです。

絵は、みんなは、舎営のことを書いていたけど、ぼくは、足をねんごして行けなかったもので、夏休み最後に、スイミングで100メートル泳ぐ挑戦をして、泳げたことを書きました。

絵を描くことは、苦手だけどコツを教えてもらったら、うまく書けました。いままで書いた絵の中で一番うまく書けたので、とてもうれしかったです。

火おこしのマシュマロは、大好きなので食べられてうれしかったです。

◇「プラゴミバスターズ大作戦」

日進第1団
カブ隊隊長 眞野 安成

2022年度のスカウトの日の奉仕活動として今年度はプラゴミバスターズ大作戦を行いました。スカウトと指導者一丸となってゴミ拾いを行う活動ですが、今まではスカウトたちはただゴミを拾って町を綺麗にするということだけを目標としていましたが、プラゴミバスターズ大作戦のおかげでなぜ？・どうして？などゴミに関しての関心をいただくことができました。

ゴミ拾いの途中でも何でここにあるのかな？誰かがすてたのかな？・本当は捨てるつもりではないのに風で飛ばされたのかな？など考えながらプラゴミを見つけていました。ゴミ拾い後に自分でできることを考えようとスカウト各々に考えてもらったところ、ごみの捨て方や最初からプラゴミを減らせる工夫などしっかりと考えていました。それを発表している姿は本当に頼もしく見えました。プラゴミ問題に関しては世界中のすべての人が真剣に考えなくてはいけないと思いました。



◇ 「帰ってきました！夏季舎営」

日進第1団
カブ隊 中川まゆみ

3年ぶりのカブ隊の夏季舎営。今回は郡上八幡に行きました。くまスカウト、しかスカウトにとっては初めて五色園以外での舎営。スカウトみんなに楽しんでもらえるようにと、指導者みんなで事前準備をしました。

郡上散策では川にたくさんいた鯉の餌やりや手ぬぐい作り体験、郡上おどりの体験などなど、普段体験できないことを楽しみました。いろんな場面で「ちょっと勇気を出す」経験をしたスカウトが多かったのでは？と思います。

二日目夜のキャンプファイヤー。限られた時間の中で、組で協力し準備をしてきました。当日参加できなかったスカウトの分も頑張っている姿をみて、とてもうれしくなりました。頑張っている姿をみてきたからこそ感動がありました。指導者をやってよかった！と思う瞬間でした。こんな気持ちにさせてくれたカブ隊スカウトのみんな、ありがとう。これからもみんなでいろんな経験をして、スカウトたちが成長する姿を見守りたいです。



◇ 「初参加！ジャンボリー！」

日進第1団
BS隊 鎌苅 碧月

今年の日本ジャンボリーはコロナで一つの場所にたくさんの方が集まることができなかったため、各地での分散開催になりま

した。

私は新城にある吉川野営場でジャンボリーに参加しました。6日間同じ団のメンバーと、しゃべったり他の団と合流でキャンプファイヤーをしたり毎日とても楽しかったです。

その中でも1番楽しかったのは登山です。鳳来寺山に登りました。はじめは私もみんなも乗り気ではありませんでしたが、行ってみたら景色がとてもきれいでとても気持ちよかったです。

途中に天狗岩という岩があって、そこから見る景色はとてもきれいでした。そして、スタート地点から見た頂上近くの休憩所に着いたとき大きな達成感を感じました。下山する途中には、長い石段があり、私は班のメンバーと1425段の石段を数えながら下山しました。

今回のジャンボリーでは、コロナで、大変なこともあったけれど、たくさんのいい思い出ができました。



◇ 「僕の野営体験」

日進第1団
BS隊 山口 凌

僕はボーイスカウトになってから2年目になります。そんな僕が今までの集会の中で一番心に残っているものがあります。それは自分がボーイスカウトに入って初めての野営のときです。

初めての野営だったので、持ち物などもまだ完璧に把握していないような状態だったので不安なこともたくさんありました。けれど実際に集会が始まると、不安な要素は全部なくなり、逆に楽しいと思っていました。分からないことがあったらすぐに他のみんなが教えてくれたり、けれど全てやってもらうのではなく、やれそうなところをやらせてくれたりなどの配慮もしてくれました。そして普段の生活とは一味も二味も違う生活のため、すごく楽しく、そしてスキルがどんどん身につく面白さが分かりました。それと同時にこれから入隊する下の子供達にも僕がしてもらったように教えてあげたいなと思った日でした。

◇ 「楽しかった日本ジャンボリー」

日進第1団
BS隊副長 山本 美耶

1日目は、仲間と馴染めるかとても不安でしたが、たくさんの活動を通していくたびに、距離が縮まり色々な人に助けをもらい、本当に楽しかったです。

私が特に楽しかった活動は、日本一プログラムと、場外プログラムと片付けです。日本一プログラムは、みんなで協力しなければ日本一にはなれないので会話も増えるため楽しかったです。

場外プログラムではいかだ作りを体験しました。その日はいつもよりも暑かったので川の冷たい水がとても気持ちよかったです。その後温泉に行きました。サイトはとても離

れていたりと、夏の暑い日が続いていたので、とても気持ちよく感じられました。



片付けしている時間は、あまり関わらなかった他の班の人ともたくさん楽しくお話が出来ました。みんな本当に優しく親切な人達ばかりで楽しかったです。みんなと協力し、絆が深まって楽しく活動に取り組むことができて良かったです。

◇ 「日本ジャンボリーで学んだこと」

日進第1団
BS隊 市川 鈴二

日本ジャンボリーで学んだことは、チームワークの大切さです。

元々自分の隊で何度か班長を務めた経験があるので、班長としての役割には少し自信がありました。しかし、日本ジャンボリーで班長をすることになり、苦勞することがありました。

それは、班員全員が違う都道府県で今回初めて顔をあわせる人たちで、考え方・やり方もバラバラだったことです。それぞれが自分のやり方で取り組むため、他の班に遅れをとることが何度もありました。僕はこの時、原隊ではいつもできていたことができないという状態に、正直家に帰りたくなってしまいうほど落ち込みました。このままでは自分にとって、班にとってもいけないと解決法を考え

てみたのですが、良い考えが出ないのでアドバイスをもらうことにしました。

隊長からは「何事にもとりあえず挑戦して、失敗してもいいから答えを見つけ出せ」と言われました。このとき思ったのは、失敗を怖がって自分一人だけで抱え込まないで、周りの意見も取り入れたり、うまくやれている班をよく観察し真似してみることも大切だと感じました。

最初はバラバラだった班もだんだんと全員の息が合うようになり、チームワークが向上していくのが分かりました。

日本ジャンボリーで学んだことは、何といても「チームワークの大切さ」です。今回の日本ジャンボリーで学んだことをこれからのスカウト活動に役立てていきたいです。



◇ 「日本スカウトジャンボリーの思い出」

日進第1団
BS 隊 中川 雅仁

日本一プログラムでは、手旗信号リレー、班旗立て、火起こしをしました。賞状を2枚もらえてうれしかったです。

二日目の午後は開会式で、まず野営長の話を聞いて、陸上自衛隊の演奏を5曲聞きました。



三日目は、午前中自衛隊のペーパークラフトとロープワークをしました。ペーパークラフトで作ったのは紙飛行機です。ロープワークは自衛隊版のえび結びをしました。午後は、ジャンボリー大集会を吉川野営場で見ました。大集会がやった場所は、大田区総合体育館です。日進第1団の眞野陽斗くんが愛知県代表で総合体育館の会場をプラカードを持って歩いていました。とてもかっこよかったです。

総合体育館に秋篠宮皇嗣同妃両殿下がいらっしゃいました。陽斗くんはお話したそうです。

ジャンボリーに行っているいろいろ経験して楽しかったです。

◇ 「愛知第4隊、隊長冥利に尽きるわ!」

日進第1団
BS 隊隊長 安田 直樹

年始には「今年の18NSJ愛知大会は、参加隊の副長で参加できるといいかなあ」とぼんやりと考えていたら、思いがけず参加隊長となり、春先から大会本番まで、2022年の前半は目まぐるしく駆け抜けていきました。

3月末、「隊長に行けって言われたから…」と面接に参加し、6月5日の結隊式には何が何だかよくわからず集まり、お互いによそよそしく接していたスカウトたち。

それがっ！

大会本番、日程が進むにつれ、毎日の大小さまざまな試練・苦労を共有し、まさに「同じ釜の飯を食う」ことをとおし、班、隊の「仲間」「同志」として結束していく様を間近で見つめることができました。

終わってみればたったの6日間、この短期間ですべてのスカウトが精神的な成長を遂げた素晴らしい野外生活だったと、思い出すと今でも目頭が熱くなります。

いつの間にかあれから3か月、この原稿を書きながら改めて感じずにはられません。「隊長冥利に尽きる大会だったわっ！」

そしてスカウト諸君、素晴らしい体験をありがとう！（副長もね♪）



◇ 「18NSJ 中央大会」

日進第1団
BS 隊副長 阪野 泰生

私は、今年開催の18NSJにて、日向会場の副長として参加をさせていただきました。

日向会場でのアクティビティは、scoutubeでおなじみのカトケンさんによる立ちカマド作りのレクチャーや、場外周辺のハイキング、カレー品評会などなど。全国から集まった代表スカウト達も、全員楽しそうに7日間を過ごすことが出来たようで、非常に良かったです。

私自身としても、他県のリーダーさんや、ローバーのスカウト達と共に過ごす中で、改めてスカウト達にどう考えさせるのか？どう

やって興味をもってもらえるのか？そういったBS活動の原点になっている部分を見つめなおすことができ、非常に良い経験をさせていただきました。

今年はコロナ禍という大変な時期での開催でしたが、19NSJでは今まで通り、全員が1カ所に集まって、もっと色々な方と野外活動を実施し、語ることが出来るようになっていくことを祈ります。

◇ 「カブからボーイへ」

日進第1団
BS 隊副長 山本 美佳

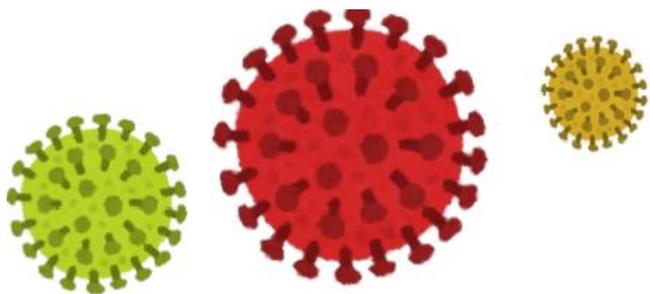
今年の夏はカブとボーイとの合同夏季野舎営でした。普段はボーイの副長をしています。なので久々にカブスカウトたちに接してみると幼くて可愛い！

ボーイに進級すると組から班体制になります。デンリーダーはいません。全部自分たちで考え行動します。失敗した時はフォローし合う仲間がいます。失敗したことを責めるのではなく、みんなで改善策を考えます。

辛いことも大変なことも一緒に乗り越えて活動しているので、仲間との絆がカブよりさらに強くなり、ほんとに仲が良いです。それがボーイの魅力の一つだと思います。

いつも遠くから活動を見守るボーイリーダーは、カブとは違って、がっつり一緒にスカウトたちと行動することはないですが、その分どんどん逞しくなるスカウトたちの姿を見られます。カブの時はあんなだったのに、こんなに立派になって！と涙が出そうになることはしばしば。

カブスカウトのみんな、ボーイで待っているよ！



コロナウイルスやっつけるぞ
☆ 石鹸をつけて手を洗いましょう
☆ 咳が出るときはマスク着用
☆ 風邪を引いたら家で休む

不要不急の旅行や帰省など県外への移動の自
粛をお願いします

感染再拡大の防止に向け、出来る限りの対策
をとり活動しましょう

《編集者より》

記事投稿ありがとうございました。
コロナの影響により、活動が制限され「はや
ぶさ」の発行にも影響がでています。新たな
株におきかわり、感染者も増加傾向です、出
来る限りの対策を取り活動しましょう。
次回も予定通り発行できることを期待して、
楽しい記事をお待ちしています。

次回は3月末締め切りです。
担当はAグループ 犬山5 江南1 北名古屋
1 瀬戸6 長久手1 春日井2 春日井8です。